【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	嬉野市立久間小学校

1　前年度 評価結果の概要	【学力の向上】・・・国語科の校内研究では、はがき新聞作成を言語活動として取り入れるなどしてNIE教育に取り組んだ。市の学力向上推進事業を兼ね全クラスで研究授業を行い、説明的文章の読解について研究を深めることができた。 ICT利活用については、職員の意識も高まり、タブレットの活用も徐々に進んでいる。 【心の教育】・・・・人権・同和教育においては、毎年、様々な取組を行うことで児童の人権意識の向上が感じられる。ネットリテラシーの研修を充実させたい。 【健康・体づくり】・食に関しては、家庭の協力もあり望ましい食生活ができている。目標をもたせることや運動に取り組みやすい環境を整えることで運動習慣を定着させたい。 【業務改善】・・・・毎週金曜日の定時退勤日（完全消灯日）等の取組により、時間外自発勤務の時間は減っている。業務に新たなアプリを導入するなど、更なるICTの利活用を図りたい。 【地域連携】・・・・久間地域コミュニティとの連携により体験を通しての教育活動ができた。また、PTAの組織改編により保護者の全員参加による活動ができた。継続させていきたい。
2　学校教育目標	いきいき久間っ子の育成　　くま・・工夫して学ぶ子　　つ・・強くてたくましい子　　こ・・心やさしい子
3　本年度の重点目標	地域に愛情と誇りをもち、笑顔あふれる久間っ子の育成　～わかる楽しさ、学ぶ楽しさ、伝え合う楽しさが味わえる学校づくり～ 【学力の向上】・・・・・・小中連携による学力向上推進事業をもとに　①学習環境や授業のUD化を図るとともに学習習慣や学習規律を確立させる。②校内研究を柱として「自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童」を育てる。 【心の教育】・・・・・・・「ほめるから、はじめる。はじまる。」を意識し、一人一人に「活躍の場」や「成長の場」を設け、ほめることで自己肯定感を高め、成長につなげる。 【健康・体つくり】・・・・「自分の命や健康は自分で守る」意識を高めるため、基本的生活習慣の確立や健康教育に取り組む。

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 市小中連携学力向上推進事業による学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「嬉野メソッドに基づく授業づくりに取り組んだ」と回答した教師の割合85%以上 ○「小中連携による学力向上に取り組んだ」と回答した教師の割合80%以上	・職員会議で「久間小メソッド」についての確認と全職員での問題解決型授業の実践を行う。 ・国語タイムや算数タイムで知識の定着と活用を図る。	A	・職員会議で「久間小メソッド」について確認をした。「嬉野メソッドに基づく授業づくりに取り組んだ」というアンケート調査で肯定的に回答した教師の割合が85.7%で、全職員で問題解決型授業の実践に向けて、研鑽を積んでいる。「私は先生の話をよく聞き、授業が分かる」というアンケート調査で肯定的に回答した児童生徒が88.2%だった。 ・放課後の国語タイムや算数タイムでは、全学年で精選した問題集を活用し、計画的に実施している。今後も継続して取り組む。	A	・職員会議で「久間小メソッド」について確認をした。「嬉野メソッドに基づく授業づくりに取り組んだ」というアンケート調査で肯定的に回答した教師の割合が100%で、全職員で問題解決型授業の実践に取り組むことができた。「私は先生の話をよく聞き、授業が分かる」というアンケート調査で肯定的に回答した児童が95.7%だった。 ・放課後の国語タイムや算数タイムでは、精選した問題集を全学年で活用し、計画的に実施することができた。	A	・教師の努力により分かりやすい授業が実施されている。 ・教員の肯定的回答が100%は素晴らしい。きちんと同じ方向にベクトルが向いており、その結果が児童の肯定的回答95%につながっている。	工夫P
	○タブレットの活用の推進	○「タブレットを活用することで、何かを調べたり発表したりして学習に生かすことができた」と回答した児童の割合80%以上	・ミライシードを活用したドリル学習に取り組ませる。 ・画像や情報などのデータの活用を図る。 ・各教科の特性に応じた活用方法（ソフト等）について職員研修を行う。	A	・児童の93.1%が「調べ学習やドリル学習でタブレットを活用している」と答えた。 ・職員はタブレットの研修を継続してるが、各学年に応じた効果的な活用法について、児童への実践を通しながら考えている。	A	・児童の97%が「タブレットを活用している」と答え、職員の84.6%が「スキルアップができた」と答えた。 ・教員間の情報交流をしながら、全学年において、学年に応じたタブレットを活用した授業を行うことができた。高学年では、オンライン英会話での活用や積極的なタブレットの持ち帰りなどを行った。長期休業は、3年生以上はタブレットの持ち帰りを行い、家庭学習に活用した。	A	・これからの世界を見据えたタブレット活用法が身についている。 ・タブレットの持ち帰りも実施され、家庭学習に活用されていて素晴らしい。	工夫P
	○校内研究の充実 自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童の育成	○「自分の考えをもって交流活動に参加している」と回答した児童の割合80%以上	・自分の考えを整理するための手段（思考ツール活用）の研修を行う。 ・学習のめあてにつながる伝え合い活動の場を工夫する。 ・全クラスで授業研究会による実践研修を行う。	B	・自分の考えを整理するための手段（思考ツール活用）の研修を実施し、日々の実践に生かしたり、環境を整えたりしている。 ・伝え合い活動の場の工夫については、伝え合う目的や内容、方法を職員全体で共通理解し、授業に生かそうとしているところである。	A	・思考ツールの目的や方法についての研修を行ったり、授業実践を通して効果的な活用や学び方について研修を深めたりすることができた。アンケートの結果を見ても、「自分の考えをもって交流活動に参加している」児童の割合が95.1%と高く、目標を達成できた。 ・全学年で研究授業とその後の授業研究会を行った。3年生は、塩田中校区の先生方に国語科の授業を公開し、児童が自分の考えをもって伝え合う姿が称賛された。	A	・思考ツールの研修もされている。思考・判断・表現の評価のために重要な要素だと思うので、今後も研究を進めてほしい。	工夫P
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合90%以上	・年間2回の人権集会や年間を通した縦割り活動を充実させる。 ・日常における児童の善行に対して賞賛（立ち止まってあいさつ・時間いっぱいそうじについてのバッジの進呈）をする。	A	・成果指標にあげたアンケート結果は、93.6%で目標に達していた。1回目の人権集会（S）は、予定通り実施できた。その際に、「ありがとうの木」の取組を行って掲示していたところ、他者から認められることで児童の自己肯定感の高まりがみられた。年間を通してこのような取り組みを行っていきたい。 ・あいさつ名人については運営委員会主導で行うことができた。引き続き指導を続け、12月末に名人認定を行う予定。	A	・アンケート結果は、97.6%で目標に達していた。2回目の人権集会に向けて、「いいねの花」の取組を行って掲示したところ、他者から認められることで児童の自己肯定感の高まりが見られた。来年度もこのような取組を行っていきたい。 ・あいさつ名人については運営委員会主導で行うことができた。全校朝会で名人を紹介したのは、称賛の意味でもよかった。	A	・人権集会の取組は特に称賛に値する。 ・久間小児童の「あいさつ力」はすばらしい。中学生になっても、その力を発揮してほしい。 ・様々な児童が主人公となる活動をされている。参考にしたい。	心P
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達の気持ちを考えた発言や行動をしている」と回答した児童の割合80%以上	・年に2回以上の児童との面談や定期的なアンケートを実施する。 ・「心のポスト」を設置し、いじめ問題の早期発見、早期対応に努める。 ・児童への情報モラル教育の実施や保護者への情報モラルについての啓発を行う。 ・学期に1回以上の構成的グループエンカウンターなどを取り入れた授業実践を行う。	A	・アンケート結果は、92.5%と目標を達成することができた。また、いじめアンケートの結果をもとに各学級で個人面談を実施し、いじめと思われるような案件については、保護者連絡や適切な指導を行い、市教委に報告した。 ・「心配事や悩み事があったときには、自分で解決したり、友達や先生、家族に相談したりできる」の項目では、89.0%と全体と比べるとやや下がっていた。再度、「心のポスト」の説明やスクールカウンセラーの活用などについて児童に説明を行い、周知を図る。	A	・アンケート結果は、93.3%と目標を達成することができた。また、いじめアンケートの結果をもとに各学級で全児童に個人面談を実施し、いじめと思われるような案件については、保護者連絡や適切な指導を行い、市教委に報告した。 ・「心配事や悩み事があったときには、自分で解決したり、友達や先生、家族に相談したりできる」の項目では、86.0%であり目標は達成できた。校長室や保健室に足を運びリフレッシュできる児童も見受けられた。肯定的な回答がなかった児童には、個別に話を聞き、対応を考えた。	A	・いじめをなくすためのきめ細かな取組がなされている。特に保護者への間髪を入れない連絡と対応が功を奏していると思う。 ・個別にそれぞれの児童にあった取組をされていることがよいと思う。	心P
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合80%以上	・教師は、児童のよさを認める言葉かけに努めると共にノートやワークシートにほめ言葉を残す。 ・キャリアパスポートや行事作文での取組を通した短期目標と長期目標の意識化させるとともに振り返り活動を充実させる。 ・学級活動、学級通信等で夢や目標を紹介する。 ・高学年において、「職業学習」等を取り入れたグローバルデーの取り組む。	B	・全職員で「ほめるから始める」を実践し、児童のノートや作品への褒め言葉を書く取組を継続している。 ・全学年で、キャリアパスポートや行事作文を通して、目標をたて振り返ることを繰り返し、自分の頑張りや成長に気づく取組を継続している。 ・学級活動や学級通信等で、夢や2学期の目標を紹介する活動に取り組む。 ・イングリッシュデーを実施予定。高学年においては、グローバルデーの取り組みを計画する。	A	・全職員で、児童の学習指導と生徒指導における共通理解をしながら、褒めて認める取組を継続した。アンケートでは、「先生がよいところを認めてくれている」と肯定的に回答した児童が95.7%だった。 ・キャリアパスポートや行事作文の取組、学級での紹介等を全学年で行うことができた。「夢や目標をもち挑戦しようとしている」というアンケートでは、92.1%の児童と87.5%の保護者が肯定的に回答している。 ・1月に、5・6年生を対象として、地域の方や保護者を講師として職業について学ぶグローバルデーを実施し、夢をもち取り組むことの大切さを学んだ。特に、4年生が「10歳の感謝の会」、5年生が「ゆめ先生」、6年生が将来について日々考える学習に取り組むなど感謝の気持ちをもって将来の夢につなぐ学習を実施した。	A	・「先生がよいところを認めてくれている」に肯定的に回答した児童が95.7%であり、すばらしいと思う。 ・将来の見通しが少しでももてるように小学校から様々な取組をされているのがよい。 ・自分の将来を考えさせる取組がなされている。キャリア教育の推進に貢献している。	工夫P
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」と回答した児童の割合70%以上	・縦割り共遊やがんばるマラソン、久間リンピック、スポーツチャレンジなど全クラスで取り組む。 ・委員会活動（体育）や放送による外遊びを推奨する。	A	・久間リンピックは、体育委員会や6年生を中心に実施した。異学年での交流の機会にもなった。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1時間以上」である児童は、80.6%だった。朝から外で体を動かして楽しむ姿が見られるが、前年度の結果よりは低い結果だった。スポーツチャレンジの取り組みへの啓発を行い、運動に親しむ機会を増やしていきたい。 ・登下校は、ほとんどの児童が、歩いての登下校ができている。	A	・久間リンピックは、体育委員会や6年生を中心に実施した。2回目の久間リンピックやマラソン大会と合わせ、学年末に目標達成の児童にバッチの認定を行う。 ・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1時間以上」である児童は、86.6%で運動習慣がついている児童が多くいる。年々暑さが厳しくなってきており、外で遊ぶことや運動をすることを制限しなければいけない日もあった。アンケートの数値を高まったかだけで判断するのではなく、子供たちが安全に遊べる環境を考えていくことも大事である。 ・ほとんどの児童が、歩いての登下校ができている。	A	・運動習慣の改善・定着に寄与している。 ・何より、ほとんどの児童が歩いて登下校できているのがよい。また、運動習慣が身についている児童の割合が高いのも素晴らしい。	強い子P
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「低学年は9時まで、中学年は9時30分、高学年10時までに寝ている」と回答した児童の割合80%以上	・生活・家庭学習チェックシートや長期休みの生活習慣チェックシートに取り組み、生活リズムが崩れないように啓発する。 ・生活習慣に関するアンケートを年2回、全学年で行い、指導に生かせるようにする。	B	・アンケートで「決められた時間までに寝ている」と答えた児童は、84.4%だった。生活習慣に関するアンケートでも個人差がみられたため、今後、全体指導に加え、個別の指導を行っていく。家庭への啓発も必要である。	B	・アンケートで81.1%では目標は達成できた。しかし、1回目より下がっているためノーデジタルデーなどを利用して、今後も児童への啓発をしていく必要がある。また、保護者との連携が不可欠なため、家庭学習チェック週間や学級通信などを使って、保護者にも協力をお願いすることも続けていく。 ・授業参観日等を活用し、SNSやスマホについて講師を招いての講話を実施する。	B	・時代の流れもあり、デジタルツールを使用するなでなく、いかにして正しく使うかを教えていくことが大事かと思う。 ・協力が難しい家庭もあるかと思うが、連携をお願いしたい。	強い子P
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答した児童の割合80%以上	・栄養教諭と協力して、食育に関する指導を全学年で行う。 ・食習慣に関する保健だよりの発行を行い、より良い食習慣についての啓発を行う。	A	・アンケートで「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、92.5%だった。実際は、給食の好き嫌いはまだ個人差があるので、指導が必要である。 ・食育教室を1～3年に実施した。その他の学年も実施予定。取り組みの内容も、学級通信などを通して行い、啓発につなげている。	A	・アンケートで「健康に良い食事をしている」と答えた児童は、96.3%であった。アンケートの結果は良いが、給食の好き嫌いはまだ個人差があるので指導が必要である。 ・食育教室を下学年で実施した。栄養教諭の都合で全学年で実施することはできなかったが、各学年で食育に関する指導は日々行うことができた。取組の内容も、学級通信などを通して伝え、啓発につなげている。	A	・望ましい食習慣が身についている。 ・頭では分かっているが、実践に移すのはやはり難しいと思う。本人が「少しでも」と思って行動できるよう、これからも指導をお願いしたい。	強い子P
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守（月45時間、年間360時間）	・毎週金曜日の定時退勤日と月1回の完全消灯日を設けるとともに職員会議等でワークライフマネジメントについて指導する。 ・業務記録票を基に時間外自発勤務が多い職員には、管理職から業務の効率的な遂行や早めの退勤について声掛けや指導を行う。	B	・定時退勤日や完全消灯日の実施については、職員に配布する週案に記載するなどして意識付けができ、実際に早めの退勤ができた。 ・月45時間以上の時間外自発勤務が見られる職員には、管理職から個人的に指導を行った。月60時間を超える場合も見られ、職員の業務に対する意欲を大事にしながらも、より効率的な働き方等について指導を行っている。	B	・定時退勤日や完全消灯日には、退勤時刻を職員に示し、通常より早めの退勤ができた。普段も管理職から退勤時刻を示し、それまでに業務を終えることができるようにした。 ・時間外自発勤務の平均時間は10月の43時間をピークとして、減少が見られる。学校全体や各プロジェクトとして10月や11月の業務内容を振り返り、効率化を行う。引き続き、45時間を超える職員には、声かけと指導を行う。	B	・業務量が多く多岐に渡っているため、効率化や削減と言っても難しいものがあると考えられる。難しいかとは思うが、「今は、しなくてもよい業務」がないかどうか、あぶりだしてみるのも一考かもしれない。	教頭
●特別支援教育の充実	○配慮が必要な児童の実態把握、合理的配慮の提供、校内支援体制の充実 学習環境や授業のUD化	○「私は、全ての児童に効果的な視覚支援を取り入れた授業や、多様性を尊重した指導を心掛けている」と回答した職員の割合80%以上	・毎週、配慮が必要な児童の共通理解・実態把握を行い、それに基づいた校内の指導体制を構築する。 ・通常学級において合理的配慮を提供（視覚支援の充実・学習のすすめ方や道具類等の系統性をもたせた指導）する。	A	・毎週月曜日の職員連絡会で、児童の情報共有の時間を設けたり、2週間に1回、教育支援員との情報交換会の時間を設けることで校内の指導体制を整えることができた。 ・アンケートの結果では、92.9%と高い割合であった。今後も、職員一人一人がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・学級づくりを目指し、合理的配慮の提供を意識していくようにする。	A	・毎週月曜日の職員連絡会で、児童の情報共有の時間を設けたり、2週間に1回、教育支援員との情報交換会の時間を設けたりすることで校内の支援体制を整えることができた。来年度も継続していきたい。 ・職員アンケートの結果では、100%であった。今後も、職員一人一人がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・学級づくりを目指し、合理的配慮の提供を意識していくようにする。	A	・情報共有がよくなされている。 ・毎週、児童の情報共有の時間を設けるなど全体できめ細かな対応をされていると思う。また、UDの視点も取り入れられているのも素晴らしい。	心P

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○保護者・地域コミュニティとの連携促進	○「コミュニティや地域の教育力を活用した実践を計画的に行っている」と回答した教員の割合80%以上	・久間コミ活動等地域連携活動を教科等の年間計画に明示する。 ・各学年でコミュニティや地域の教育力を生かした教科横断的な単元を年に1回以上実施する。 ・学校だよりや学校HPによる情報発進を行う。	A	・昨年度の反省をもとに久間コミ活動等地域連携活動の年間計画を作成し、教科等の年間計画につながりが分かるように明示して取り組みやすくした。 ・6月にカリキュラムマネジメントの研修会をもち、各学年で地域連携活動を中心にした教科横断的な単元づくりをおこない、学習発表会に向けての計画を立てた。 ・学校だよりや学校HPで積極的に情報発進を行っている。	A	・各学年で、地域連携活動を中心に置いた教科横断的な単元の計画に沿って学習を進め、11月の学習発表会で発表ができた。今年度、3・4年生は地域へ向けた発信を行い達成感を味わうとともに、少してあるが地域貢献にもつなげることができた。「コミュニティや地域の教育力を活用した実践を計画的に行っている」教師の回答が100%を達成した。地域の力を活用し教育実践を行っているからである。 ・PTAでも、読み聞かせ活動、トイレののれん作り、側溝の土上げ、トイレ掃除など環境整備に積極的に取り組んでもらうとともに、今年度は懸案だった「子供１１０番の家」の設置を進めることができた。	A	・地域の教育力活用も必要であるが、業務効率化の視点から思い切った削減等、見直しも重要である。 ・PTAの活動も活発化しているものと思われる。 ・「コミュニティや地域の教育力を活用した実践を計画的に行っている」の教師の回答が100%は素晴らしい。保護者との連携もあり、うらやましい。	教務主任

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	【学力の向上】・・・・・小中連携による学力向上推進事業の基、久間小メソッドや家庭学習の手引きの活用により学習規律や家庭学習の習慣をおおむね確立させることができた。また、校内研究を柱とした「自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童」を育てる取組では、思考ツールの活用により一定の成果を上げることができた。今後、思考ツールを活用する場面を増やして自分の考えを形成させるとともに、それを基にした交流活動の充実に取り組んでいく。 【心の教育】・・・・・・「ほめるから、はじめる。はじまる。」を第一に考え、ほめて力を伸ばす教育に取り組んだ。人権教育やいじめ防止教育、キャリア教育、縦割り班による異学年交流活動等に取り組むことで友達に対する思いやりの心や自己有用感を育むことができた。いじめ事案についても担任の見取りやアンケートにより早期発見と早期解決に努めることができた。地域やPTAとの連携も盛んであり、学校と家庭、地域で子供を育てることができている。次年度もこれらを継続していく。 【健康・体つくり】・・・・「自分の命や健康は自分で守る」意識を高めるため、基本的生活習慣の確立や健康教育に取り組んだ。就寝時刻など望ましい生活習慣の形成において、十分とは言えなかった。望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせられることができるように家庭への啓発活動を進めていく。 【業務改善】・・・・・・・定時退勤日の設定など効果が見られる取組もあるが、時間外在校等時間が360時間を超える職員が複数人見られた。継続的な声かけや指導を行うとともに学校行事等の精選を行うなど業務改善と働き方改革に努める。